



3.5 インチ SATA ハードディスク専用

2-Bay RAID System

Streamlines Storage Management Easily

USB2.0
eSATA
FireWire 400
FireWire 800



ユーザーズマニュアル



Data Watch Technologies Co., Ltd. / Onnto Corporation

目次

概要	4
著作権	4
告示と分類	4
お問い合わせ	4
はじめに	6
特徴	6
動作環境	7
PC	7
MAC	7
オプション・アクセサリ（別売）	7
パッケージ内容	8
製品外観	9
前面	9
背面	9
上部とカバー	10
RAID システムにおけるハードディスクの挿入と交換	11
コンピューターとの接続	17
複数機器の接続	20
RAID モード	21
RAID 0 (STRIPING)	22
RAID 1 (ミラーリング)	23
JBOD	24
RAID モードの設定(手動)	25
RAID スイッチ	26
ハードディスクドライブスロット番号	27
ハードディスクの割り当て	27
LED 表示ランプ	28
電源 LED x 1	28
HDD LED x 4	28
安全な取り外し	29
外付けデバイスからのシステム起動	30
PC	30
MAC	30
2 テラバイト以上のハードディスク	30
ESATA PCI EXPRESS カードの導入 <別売品>	31
動作環境	31

機器の取り付け	31
ドライバのインストール	32
ドライバの認証	32
<i>Mac OS</i> :	32
<i>Windows OS</i> :	32
<i>Windows 2003 と XP</i> :	33
<i>Windows 2000</i> :	33
Q&A	34
一般	34
ハードディスクの容量	34
ハードディスク容量の違い	35
ハードディスクの割り当て	35
RAID 0	35
JBOD	36
付録: 仕様	37

概要

著作権

本書は ONNTO CORPORATION の著作物です。したがって、本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載することは法律で禁止されています。



このマニュアルで提供される製品仕様、デザインなどを予告せず変更する場合があります。内容には万全を期しておりますが、誤記、記載漏れなどがありましたら、弊社までご連絡ください。

告示と分類

FCC-B クラス機器の無線周波障害に関して

このデバイスは、FCC（連邦通信委員会）規則パート 15 に準拠しています。この装置の動作は、以下の 2 つの条件に準拠します。

この装置は、無線周波障害を引き起こしてはならない。
この装置は、あらゆる無線周波障害に対して対応できなければならない。これには、望ましくない動作を引き起こす可能性のある無線周波障害も含む。



この装置は、FCC 規則パート 15 のクラス B デジタル機器に対する制限に準拠することが試験により確認されています。これらの制限は、装置が商業環境下で使用される際に有害な無線周波障害に対して十分な保護を提供することを目的としています。この装置は無線周波エネルギーを発生、使用ならびに放射するものであり、指示マニュアルの記述に従って設置および使用しなければ、無線周波障害によって無線通信を妨害する可能性があります。

お問い合わせ

本製品に関するお問い合わせは、ウェブサイトより受け付けております。また、ウェブサイトの「製品 FAQ」よりよくある事例をご確認いただけます。

ONNTO Corporation / Data Watch Technologies Co., Ltd.

3F, No. 60, Lane 321, Yang Guang St., Nei Hu, Taipei 114 Taiwan

Tel: +886-2-8797-8868

Fax: +886-2-8797-4801

Email: question@onnto.com.tw / question@datawatchtech.com

Web: <http://www.onnto.com> / <http://www.datawatchtech.com>

使用上の注意

- ◆ RAID ケースの主要回路基板は、静電気の影響を受けやすい部品です。本製品やコンピュータを含む接続機器に対する電氣的な損傷を防止するため、適切なアース接続によって静電気を逃がす必要があります。本製品は常に平らな面にしっかりと置き、使用中に急激な動きや振動、衝撃などを与えないようにしてください。
- ◆ 本製品使用の際は、周辺機器やパソコンメーカーの提示する警告、注意事項等を守ってください。
- ◆ 本体を濡らしたり、濡れた手でさわらないでください。
- ◆ 本製品を強い電磁波を発する機器(携帯電話など)、高圧機器（ドライヤーなど）、熱を発する物（ストーブなど）のそばに置かないでください。また、直射日光の当たる場所、湿気やホコリが多い場所には置かないでください。
- ◆ ご使用のコンピューターによっては、新たにインターフェイスを取り付ける必要があるものもあります。
- ◆ ご自分で改造、修理、分解をしないでください。感電、火災、やけど、故障などの原因となることがあります。
- ◆ 通気口をふさがないでください。適切な熱排気が行われないと、オーバーヒートにより故障の原因となります。
- ◆ 環境保護の観点から、本製品を使用中でないときは、電源プラグを抜いてください。
- ◆ ケーブル類は本製品に付属しているものをお使いください。

はじめに

DataTale3.5 インチ SATA ハードディスク 2 ベイ RAID システム（以下、本製品と呼びます）をご購入いただきありがとうございます。本製品は大きな容量と最新の RAID システムを提供するハードウェア RAID ユニットです。RAID モードスイッチで、簡単に RAID 0(ストライピング)、RAID 1(ミラーリング)と JBOD(Just Bunch Of Disks)に設定できます。



ご使用前に、本マニュアルをよくお読みください。取り扱いを誤ると、本製品、接続された機器類を破損することがあります。



FireWire は IEEE1394、i.Link と表示されることもあります。

特徴

- ✚ SATA II および、SATA1.0、SATA1.0a のハードディスクに対応
- ✚ eSATA、USB2.0、FireWire400、FireWire800 ポート搭載
- ✚ RAID 0 (ストライピング)、RAID 1 (ミラーリング)、JBOD (Just a Bunch Of Disks) の 3 つの RAID レベルを選択可能
- ✚ スイッチひとつで簡単に RAID レベルを設定
- ✚ ソフトウェア不要で簡単操作
- ✚ LED ランプでシステムの状態を表示
- ✚ 締め過ぎ防止機構付ネジでハードディスクへのダメージを予防
- ✚ SmartGuider とユーザーフレンドリーな設計で、簡単にハードディスクを取替え
- ✚ アルミキャビネットで効果的な熱発散
- ✚ 静かなファンと計算されたメカデザインが最適なエアフローを実現
- ✚ ホットプラグとホットスワップに対応
- ✚ オンライン、オフライン両方のリビルド（再構築、復旧）対応



本製品を使用中にデータが破壊、消失した場合でも、データの保証は一切できません。あらかじめご了承ください



SmartGuider はハードディスクケースのこれまでのトレイや付属品に代わるものとしてデザインされました。拡張ハンドルと締め過ぎ防止機構付きネジで誰でも簡単に設置が可能。ドライバーでハンドルをハードディスクにつけるだけです。これにより、ハードディスクの本製品への着脱が簡単にできます。

動作環境

本製品をご使用するためには以下のパソコン環境が必要です。

PC

- ✚ 266MHz 以上の CPU (Windows Vista の場合は、800MHz 以上が必要です)
- ✚ 64MB の RAM (Windows Vista の場合は 512MB 以上の RAM が必要です)
- ✚ Microsoft Windows 2000、XP、2003、Vista
- ✚ 利用可能な eSATA ポート、USB 2.0 ポート、FireWire400 ポートもしくは、FireWire800 ポート (モデルにより異なります)

MAC

- ✚ Macintosh PowerPC、もしくは Intel Core Duo プロセッサ
- ✚ 64MB の RAM (Mac OS X 10.4 の場合は 256MB 以上の RAM が必要です)
- ✚ Mac OS 10.2 かそれ以上 (PowerPC)、または Mac OS X 10.4 かそれ以上 (Intel)
- ✚ 利用可能な eSATA ポート、USB 2.0 ポート、FireWire400 ポートもしくは、FireWire800 ポート (モデルにより異なります)

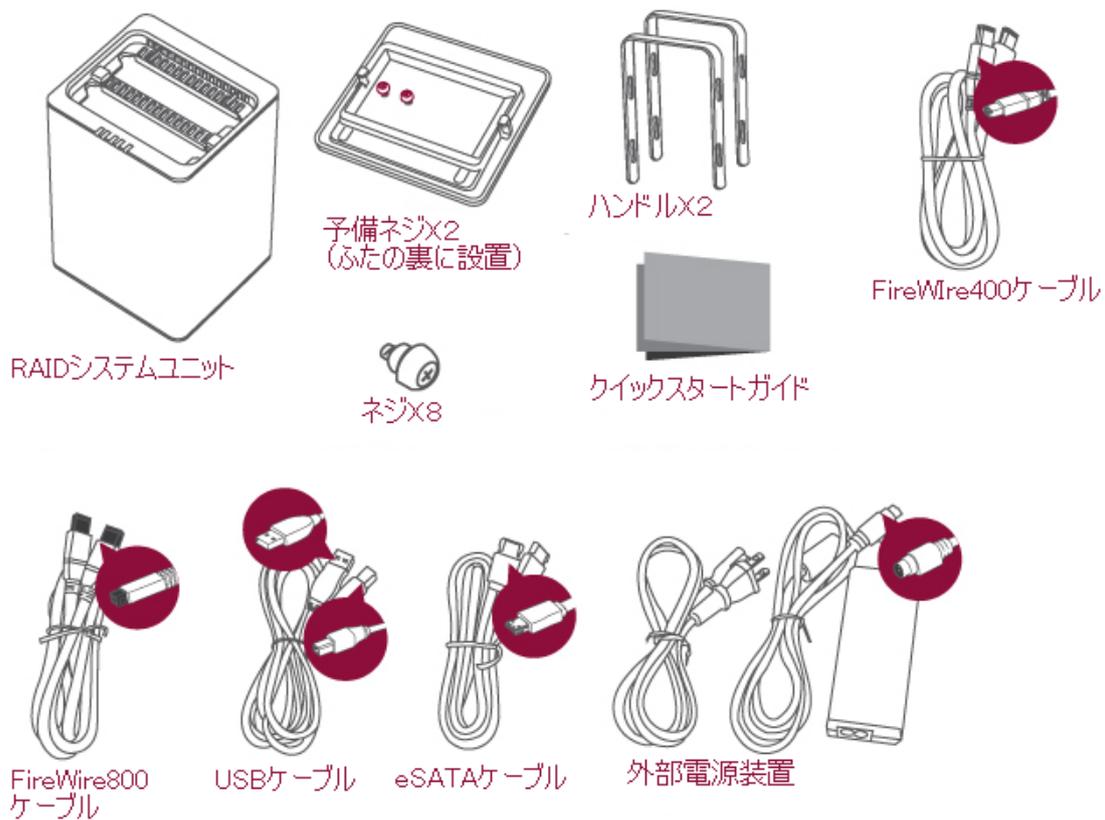


3.5” インチ SATA 互換のハードディスクドライブが必要です。フォーマット後の容量、OS により表示される容量が異なります。(5-10%少ないことが多い)

オプション・アクセサリ (別売)

- ✚ eSATA PCI, PCI-X, PCI-Express Card

パッケージ内容

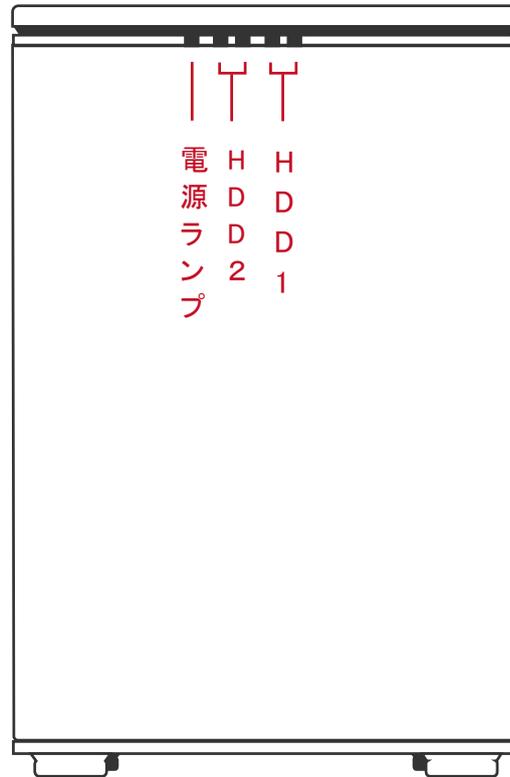


 万一、製品を返却するときのために、付属品、パッケージ等は保存して置いてください。それぞれのモデルで内容物は異なります。

1 LED 表示ランプ

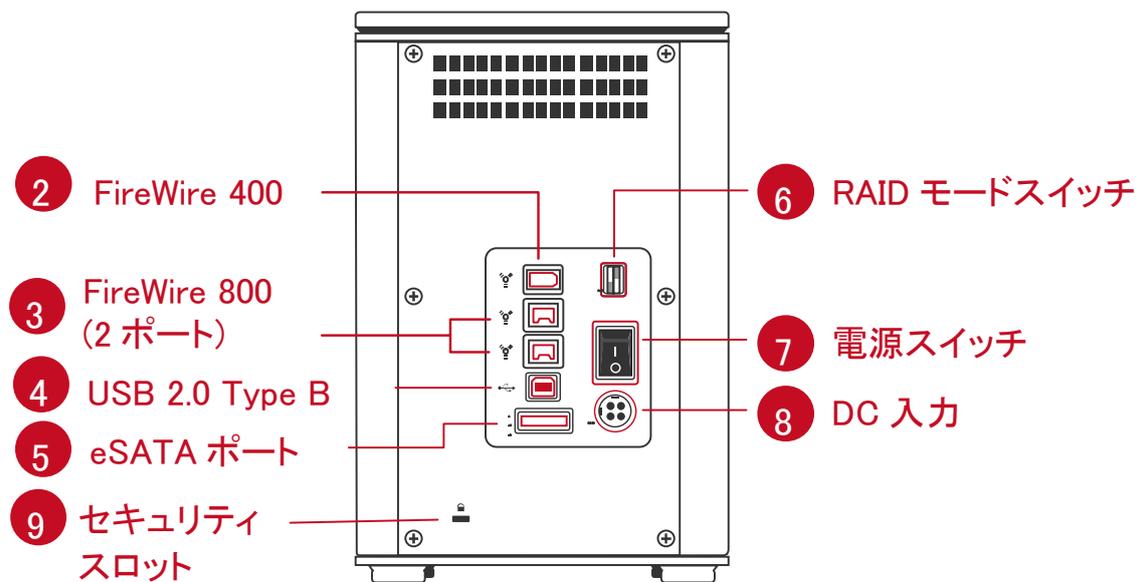
製品外観

前面



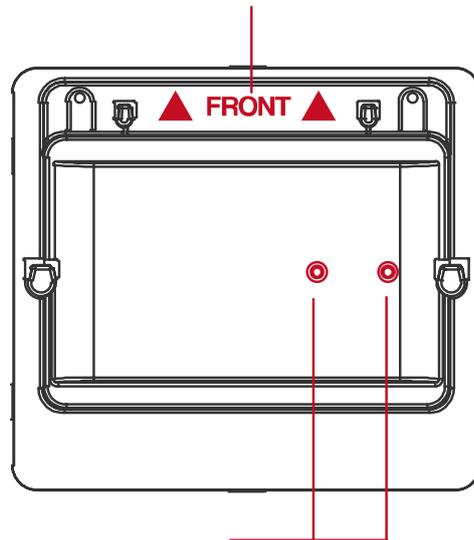
 LED 表示ランプのセクションでそれぞれの状態を説明しています。

背面

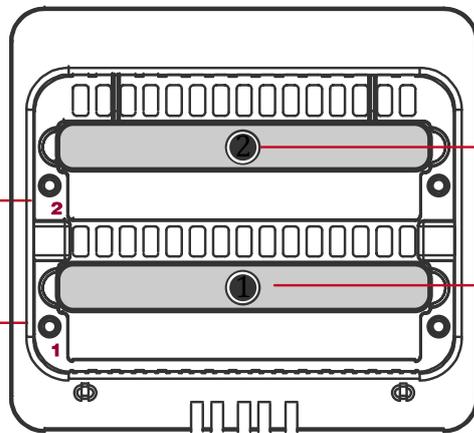


上部とカバー

10 正面、LED ランプ



11 予備ネジ 2 個



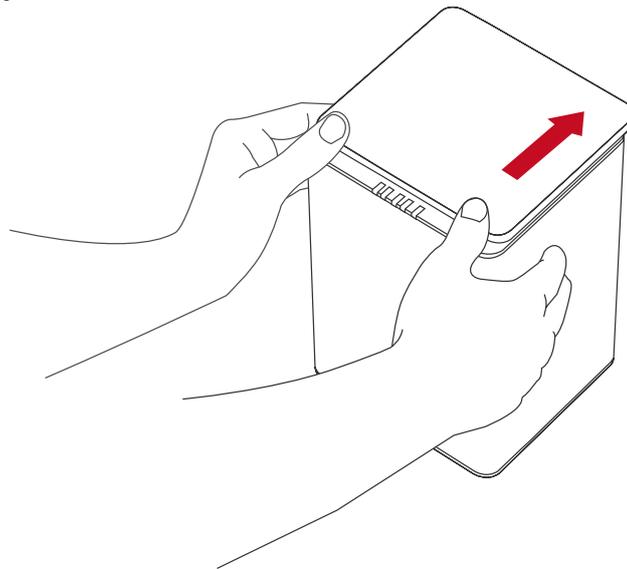
13

ハンドル

12 ハードディスクスロット

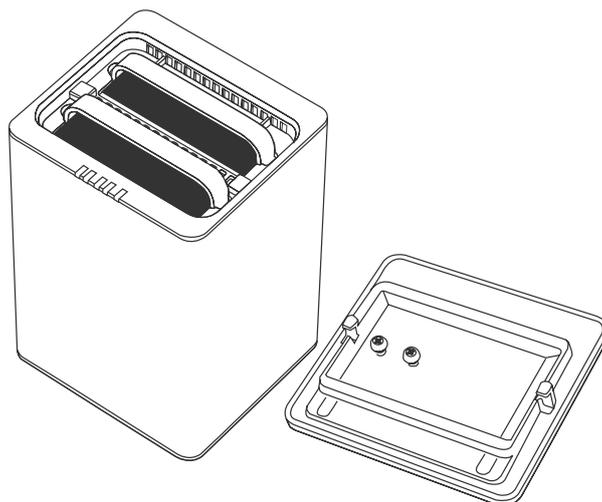
RAID システムにおけるハードディスクの挿入と交換

1. 本製品を正面が前に来るように置きます。親指で手前から押し出すようにスライドさせます。



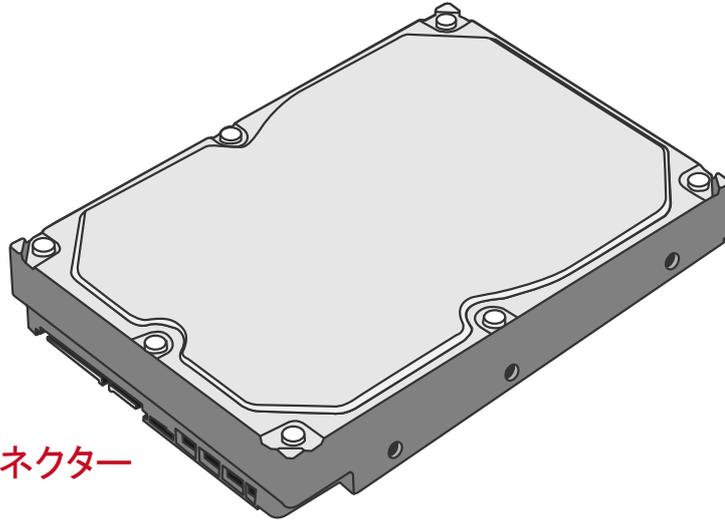
 カチッと言う音は、カバーの留め金が外れた音です。

2. カバーをはずすとハードディスクスロットが見えます。SmartGuider (ハンドル) とネジをパッケージから取り出します。

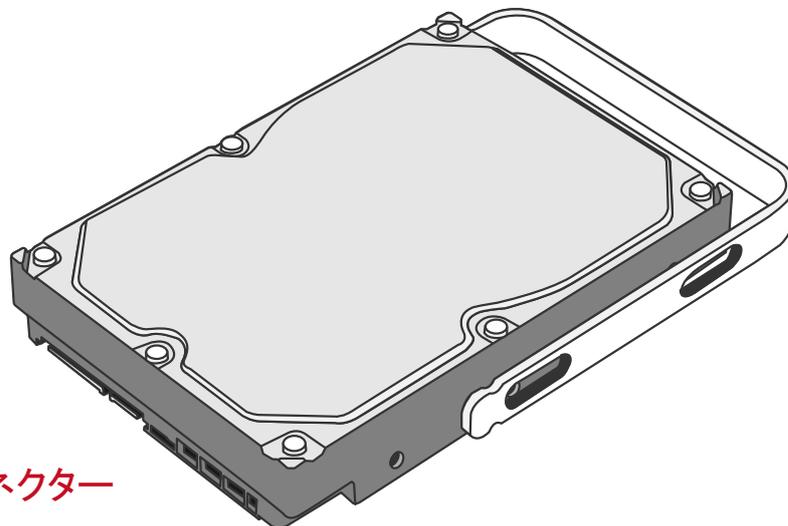


(ハードディスクに *SmartGuider* を取り付ける)

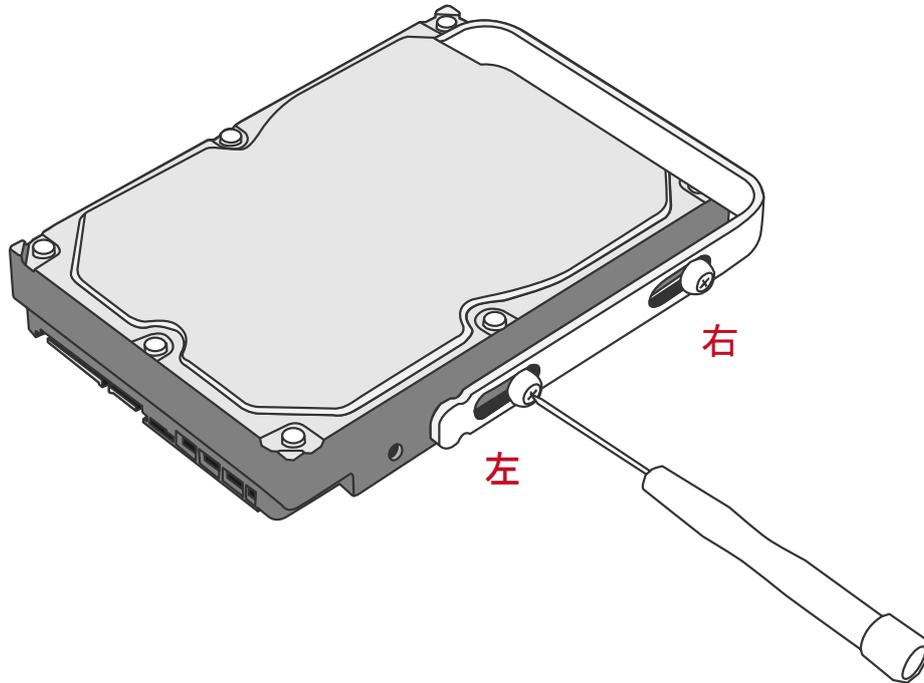
3. ハードディスクを金属カバーの面を上、インターフェイスが左に来るようにします。



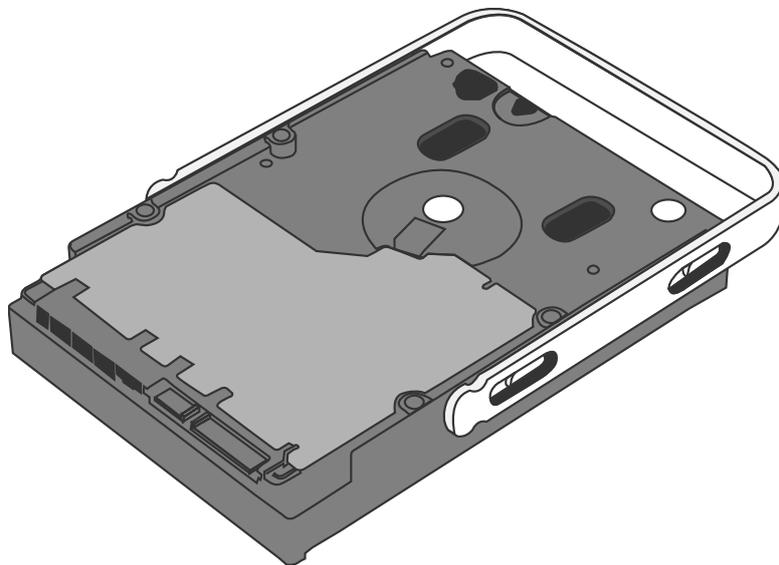
4. *SmartGuider* を下図のようにコネクターと反対側に設置、ネジ穴を合わせます。



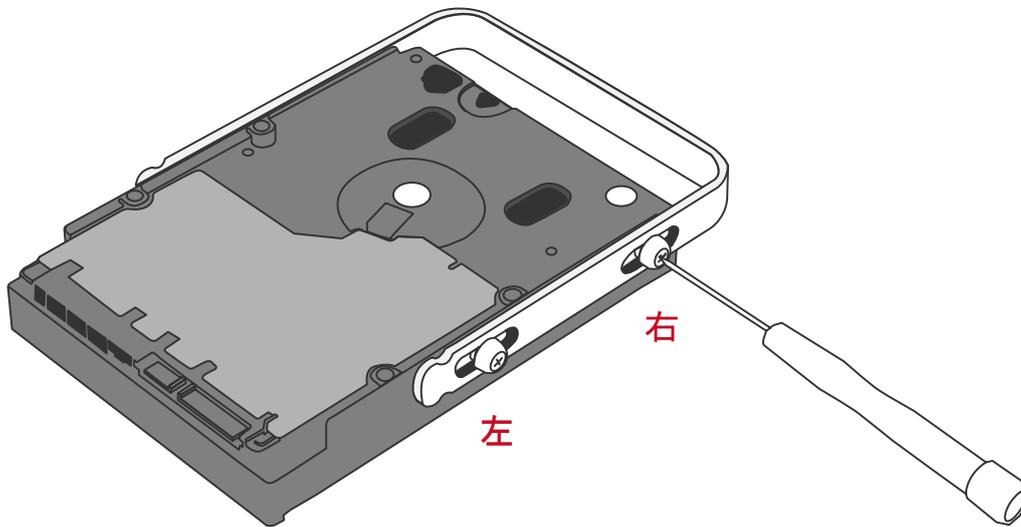
5. ネジを左側を先に、二つとも締めます。



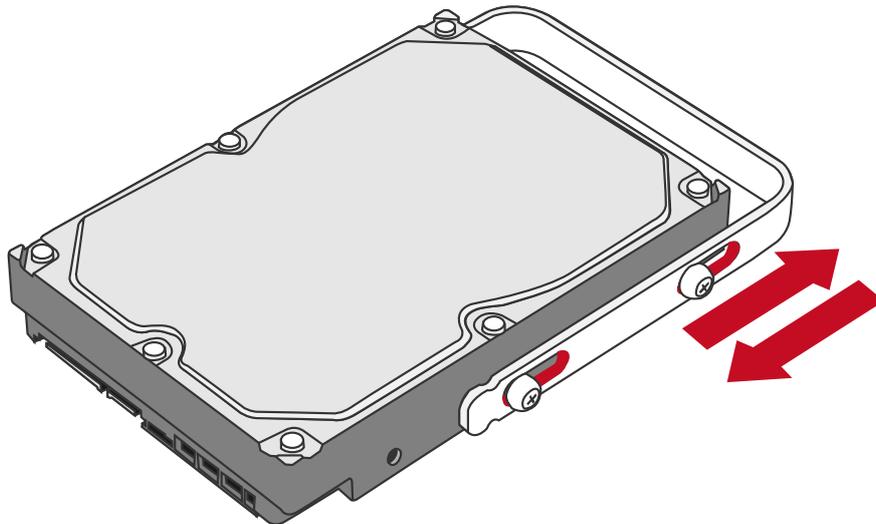
6. 今度は、ハードディスクを裏返します。



7. 先ほどと同じように、左のほうを先に、二つともネジを締めます。

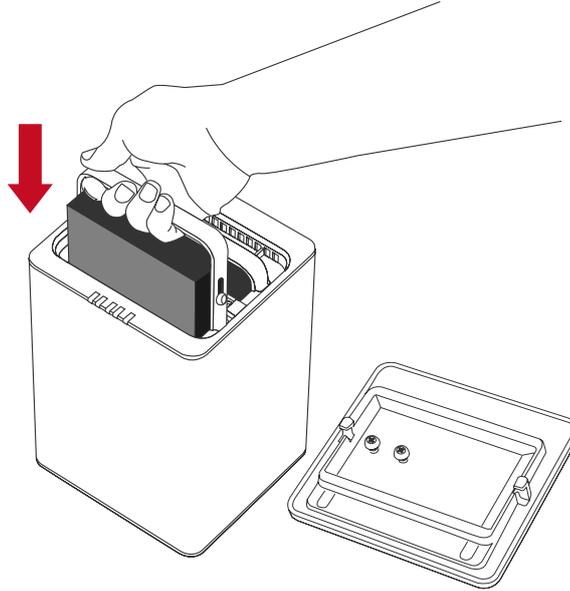


8. 最後に、SmartGuider がスムーズに上下するか確認します。もうひとつのハードディスクも同様にします。



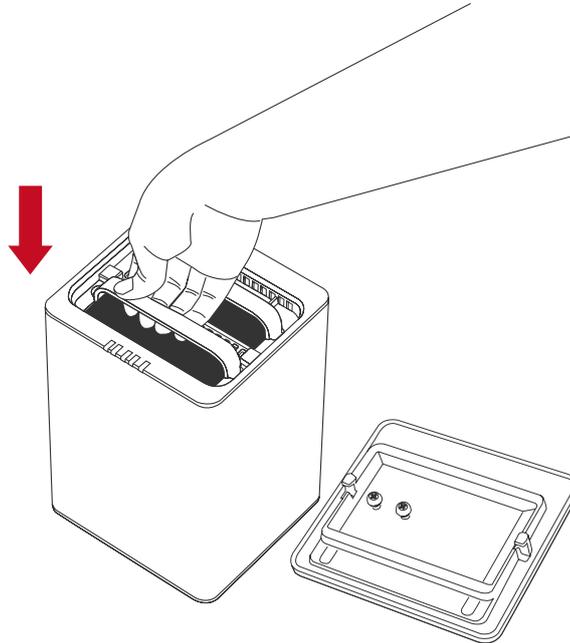
 締め過ぎ防止機構付ネジは締めすぎによりハードディスクが破損するのを防止するようデザインされています。同時に、SmartGuider が滑らかに動くようにできています。

9. ハードディスクの金属カバー面が正面に来るよう持ち、まっすぐ挿入します。



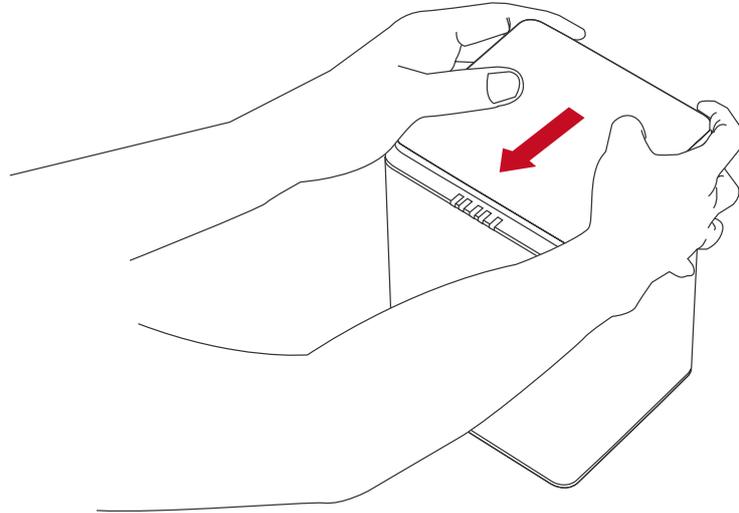
 反対に入れようとすると、SmartGuiderにより引っかかり挿入できないようになっています。

10. ガイドレールに沿ってハードディスクを挿入、ガチッと音がするまで差し込みます。もうひとつのハードディスクも同様にします。



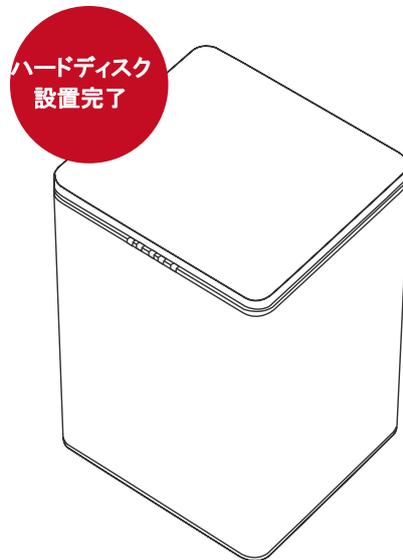
 ガチッと音がするまで、しっかりハードディスクを挿入してください。

11. カバーをはずしたときと反対の要領で、カバーを手前にスライドさせて、ふたをします。



 カチッと音がるのは、留め金がきっちり固定されたということです。

12. これで準備は完了です。コンピューターに接続できます。

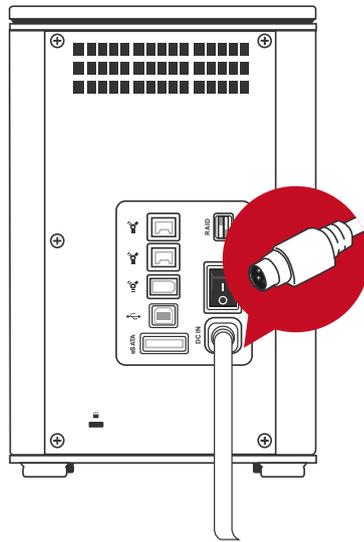


コンピューターとの接続

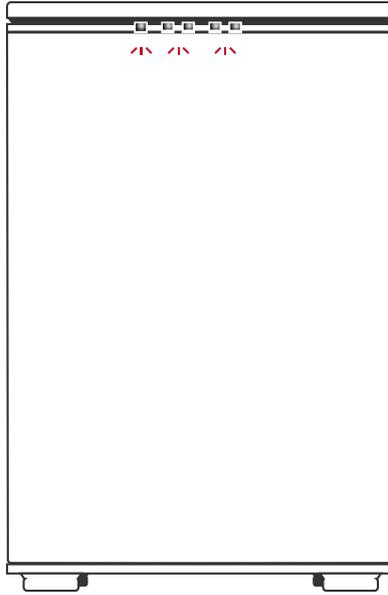
下記の手順で本製品をコンピューターに接続します。

 本製品はいずれかのインターフェイスひとつでコンピューターに接続します。複数のインターフェイスでの接続はできません。同時に複数のインターフェイスで接続した場合は、コンピューターが本製品を認識しません。

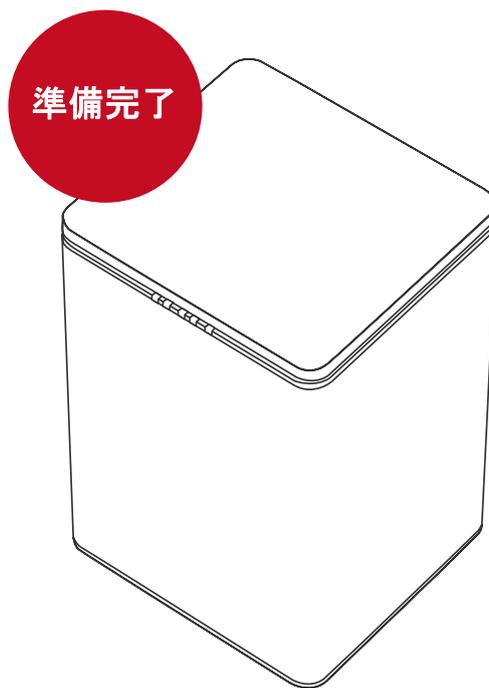
1. AC アダプターを接続します。



2. USB2.0、eSATA、FireWire400、FireWire800、いずれかのケーブルを本製品とコンピューター双方をつなぎます。



5. これで RAID システムを使う準備ができました。



 互換性の問題から、eSATA で接続する場合は Silicon Image 社製の eSATA ホストコントローラを使用することを推奨します。

複数機器の接続

本製品はデイジーチェーンに対応していますので、FireWire400/800 でほかのデジタル機器（デジタルビデオカメラ、ほかのハードディスク、DVD 機器など）と接続できます。この機能を利用するには、同じインターフェイスで接続する必要があります。複数の異なるインターフェイスで接続した場合は、コンピューターが機器を認識できません。また、異なるインターフェイス（たとえば、FireWire400 と FireWire800）で接続した場合、速度は遅いほう（ここでは FireWire400）の転送速度となります。



eSATA、USB での接続ではデイジーチェーンは利用できません。

RAID モード

RAID とは複数のハードディスクをひとつのハードディスクと見なし、データを分散させてスピードを向上させたり、コピーを作って安全性を向上させたりするシステムです。ハードディスクの組み合わせ、運用方法によって RAID レベル（モード）が決められています。本製品では 2 台のハードディスクを使用して RAID を構築します。



RAID モードを変更する前に、これまで使っていたハードディスクのパーティションを削除することを推奨します。

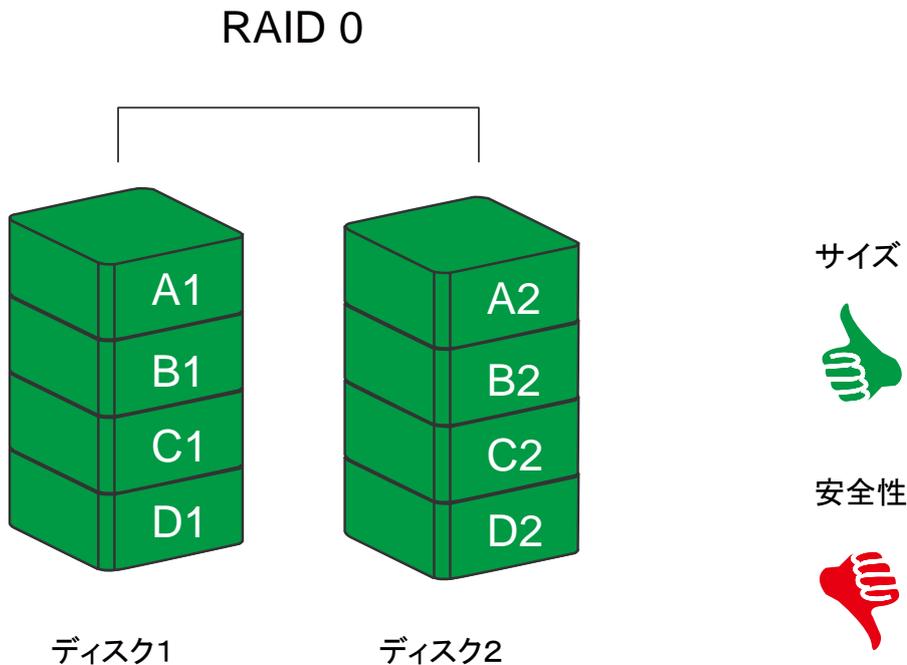


同メーカー、同容量、同回転数のハードディスクを推奨します。

RAID 0 (Striping)

RAID 0 (ストライピング)はパフォーマンス重視のタイプです。複数のハードディスクを論理的なひとつのドライブと見なします。OS上ではひとつのドライブのとして認識されます。データを複数のハードディスクに分散して同時に書き込みするため、アクセス速度が飛躍的に向上します。

このモードでは、異なるサイズのハードディスク用いることができますが、総容量は小さいほうのディスクが採用されます。例えば、750GBと500GBのハードディスクでRAID 0を構成すると、トータルの容量は1TBとなります。RAID 0では、スピードは上がりますが、データを保護する仕組みがないため、重要なデータの保存には向きません。



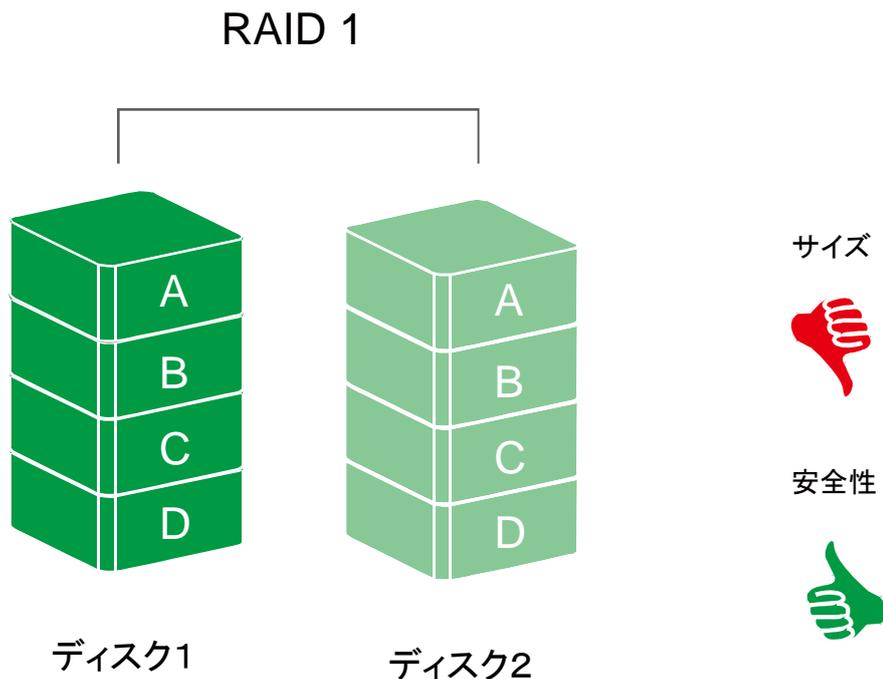
 RAID 0モードでは、分散してデータを保存しているため、構成するハードディスクが一台でも故障すると、すべてのデータが読み出せなくなります。

 RAID 0モードをご利用の際は、ホットスワップは行わないで下さい。すべてのデータを失う可能性があります。

RAID 1 (ミラーリング)

ミラーリング (RAID 1) は二つ以上のハードディスクからなり、同じデータをふたつ作成します。このモードでは二つのディスクに同時に書き込みます。よって、ドライブのトータル容量は構成するハードディスクの少ないほうが採用されます。例えば、500GB+500GB で構成する場合のトータル容量は 500GB です。ひとつのハードディスクが故障しても、バックアップがあるためそのまま使い続けることができます。アクセス速度はその他の RAID モードと比較すると遅くなります。

リビルド(再構築、復旧)をするときは、先に挿入されていたほうのハードディスクをオリジナルとしバックアップを作成します。もともとのハードディスクのバックアップを作成する場合は、必ずバックアップ元のハードディスクを先に挿入してください。システムがハードディスクが認識したら、もうひとつのハードディスク (バックアップ先) を挿入してください。自動的にリビルドが始まると、HDD LED が点滅します。



 ミラーリングモードではひとつのハードディスクが故障しても、もうひとつのバックアップがあるのでそのまま使い続けることができます。しかし、リビルド中にバックアップ元ディスクが不具合を起こすと、データの復旧は不可能です。

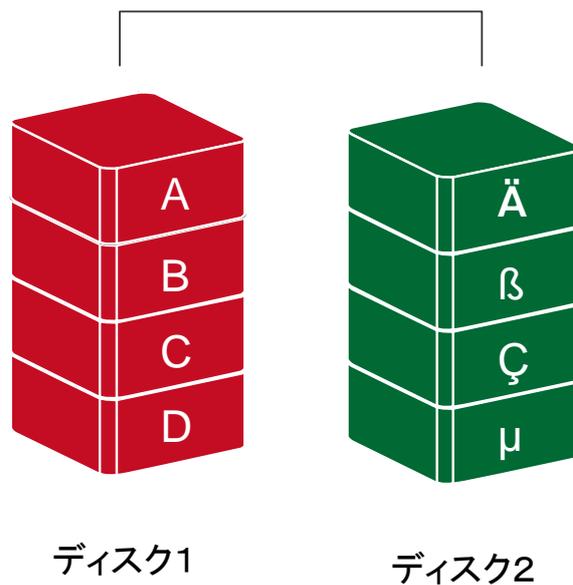


リビルド中にディスクの抜き差しをしないでください。データを失います。

JBOD

RAID を構築しないで、それぞれを個別のドライブとして扱う方式です。それぞれのハードディスクがひとつのドライブとして認識され、動作します。

JBOD



チップセットの制限で、JBOD モードの際はホットスワップは利用できません。ハードディスクを抜き差しはケース電源を切ってから行ってください。



eSATA 接続では JBOD モードは利用できません。JBOD モードは USB、FireWire のみで利用可能です。



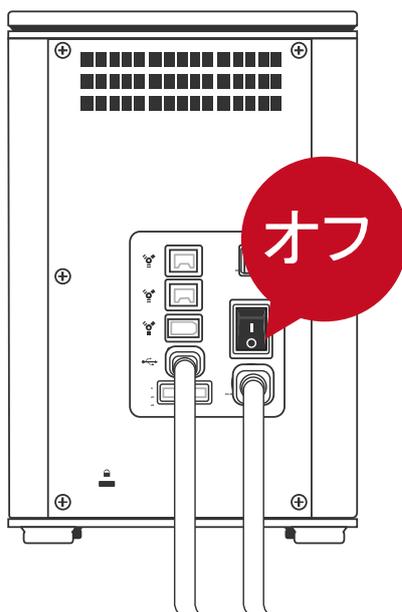
チップセットの仕様により、一台のハードディスクを JBOD モードでご利用の場合は、HDD 2 のスロットにハードディスクをさしてください。

RAID モードの設定(手動)

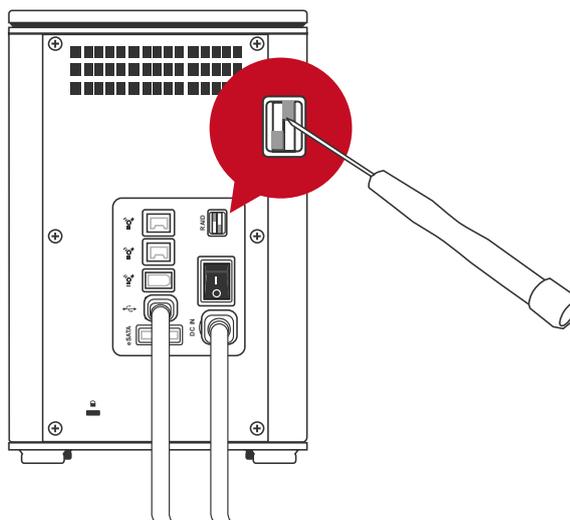


RAID モード(レベル)を変更すると、ハードディスクの内容がすべて消去されます。データが記録されている場合は、RAID レベルを変更する前にバックアップを取ってください。

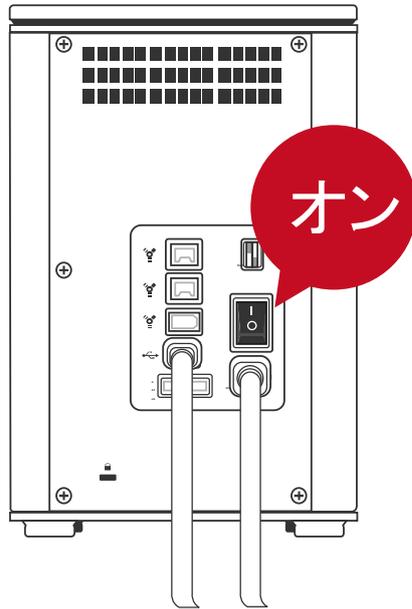
1. RAID システムの電源をオフにします。



2. 小型のマイナスドライバーを使い、RAID スイッチを操作します。



3. RAID モードを設定したら、電源をオンにします。



 RAID モードを設定、変更するときは必ず、システムの電源をオフにしてください。

RAID スイッチ

RAID 0(ストライピング)



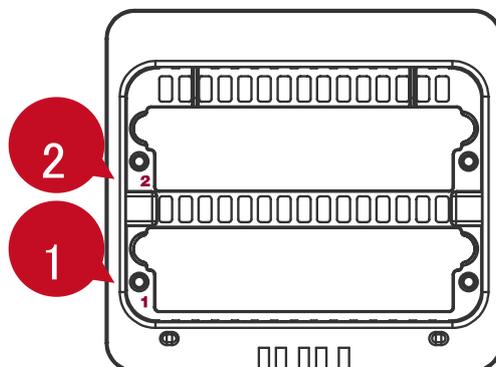
RAID 1(ミラーリング)



JBOD

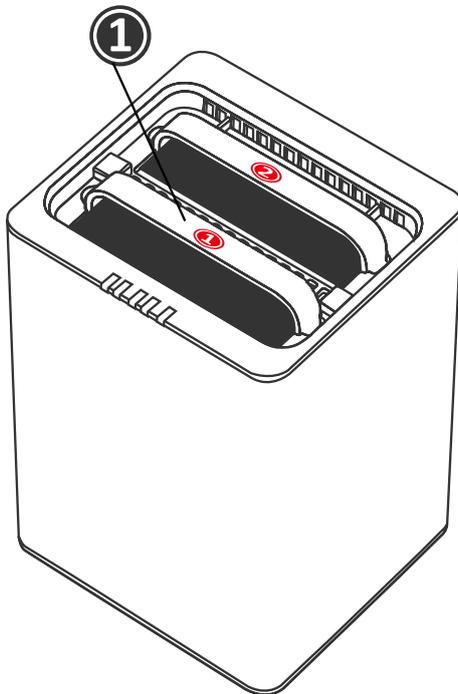


ハードディスクドライブスロット番号

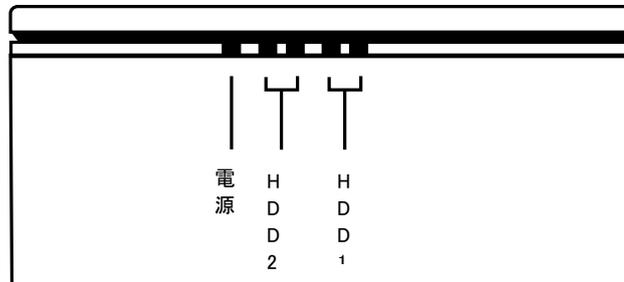


ハードディスクの割り当て

ハードディスクの位置割り当てを明確にするため、パッケージに付属の番号シールをご利用ください。ハードディスクを抜いて、間違った位置に戻した場合、データが消失する可能性があります。



LED 表示ランプ



電源 LED x 1

表示	色
電源オン	緑
電源オフ	なし

HDD LED x 4

それぞれのハードディスクスロットに2個ずつのLEDランプがついています。左側は接続状態を示し、右側は状態、アクセスを示します。

接続を示すLEDは白色一色です。ハードディスクが接続されていると、点灯します。また、このランプはハードディスクドライブの電源状態を示し、さらにリビルド中は点滅します。

状態/アクセスLEDは赤と青の2色です。赤は状態を示し、青はアクセス状況を示します。ハードディスクに以上があるとき、赤いLEDが点灯します。また、ハードディスクがアクセス中の時は、青色が点滅します。ハードディスクが正常で、且つアクセス中でないときは、点灯しません。

表示		HDD (1, 2)			RAID モード
		左 (接続)	右		
			色1 (状態)	色2 (アクセス)	
ディスクエラー		なし	赤	なし	RAID 0, RAID 1, JBOD
データアクセス		白	なし	青点滅	RAID 0, RAID 1, JBOD
ディスク リビルド	ソース HDD	白	なし	青	RAID 1
	ターゲット HDD	白点滅(ゆっくり)	なし	青	RAID 1

安全な取り外し

インターフェイスを変更するときなどは、オペレーティングシステムの外部デバイスの安全な取り外しを使用してください。操作方法、表示はそれぞれの OS で異なります。



Mac 仕様の場合、すべてのインターフェイスで安全な取り外しが必要です。デスクトップにある本製品のアイコンをゴミ箱にドラッグアンドドロップしてください。



WindowsOS を使用の場合は、インターフェイスにより異なります。最近の USB や FireWire コントローラでは、USB や FireWire で接続された機器を外部デバイスと見なします。よって、いずれかを使用の場合は、安全な取り外しを実行してください。タスクトレイのステータス領域にあるアイコンをクリックし、メニューから該当装置を停止してください。しかしながら、eSATA を使用の場合は eSATA コントローラにより内部デバイスとして扱うもの、外部デバイスとして扱うものがあります。内部デバイスとして認識されている場合は、安全な取り外しの実行は必要ではありません。

外付けデバイスからのシステム起動

外付けハードディスクからのシステム起動については、下表をご参考ください。

PC

	USB 2.0	FireWire	eSATA
Windows	不可	不可	可
DOS	可	不可	可
Linux	不可	不可	可

MAC

		USB 2.0	FireWire	eSATA	
				ドライバ内蔵	ドライバ内蔵でない
Power PC CPU (G4以降)		不可	不可	可	不可
Intel CPU	CoreDuo	可	不可	可	不可
	Core2Duo以降	可	可	可	不可



eSATA ポートを装備しない PC で、新たに eSATA カードを増設する場合は、OS の標準ドライバで対応できるカードを選んでください。

2テラバイト以上のハードディスク

2テラバイト以上のハードディスクへの対応は、デバイスに使われているチップセットと、オペレーティングシステムに起因します。この RAID システムは 2テラバイト以上に対応し、認識しますが、実際の利用においては使用している OS の対応をご確認ください。

OS		USB	FireWire	eSATA
Windows	Windows 2000, XP 以降	不可	不可	不可
	Windows XP 64-bit, Windows 2003 32-bit/64-bit (SP1 と SP2)	可	不可	可
	Windows Vista, Windows 2008 32-bit/64-bit	可	可	可
Linux	Linux 32-bit/64-bit	不可	不可	不可
Mac	Mac OS 9/10.1/10.2	不可	不可	不可
	Mac OS 10.3/10.4/10.5	可	可	可

eSATA PCI EXPRESS カードの導入 <別売品>

eSATA PCI Express カードを導入して、RAID システムを使用する際は、手順に沿って PCI Express カードを取り付けてください。

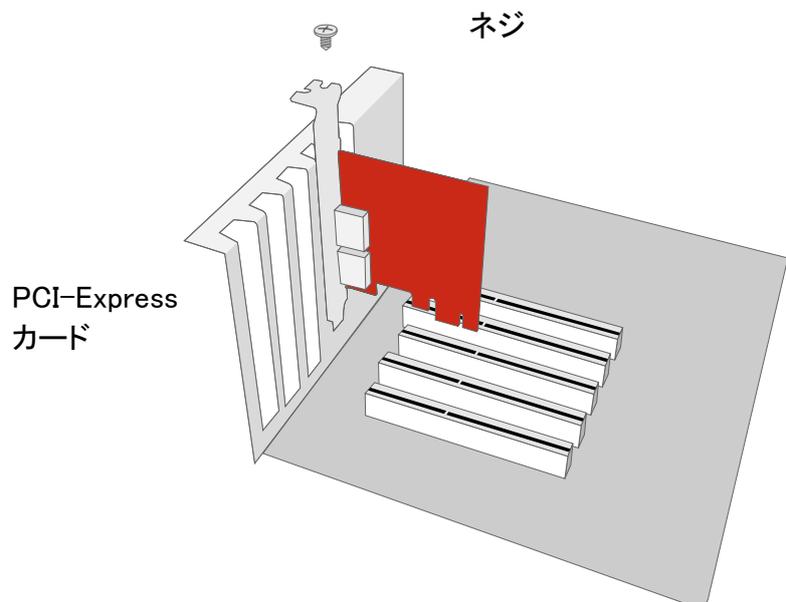
動作環境

- ✚ Windows 2000 Service Pack 4 以上
- ✚ Windows XP Service Pack 2 以上
- ✚ Windows 2003 Service Pack 1 以上
- ✚ Mac OS 10.4.x 以降
- ✚ 利用可能な PCI-Express スロット
- ✚ CD-ROM もしくは DVD-ROM ドライブ

機器の取り付け

1. コンピュータの電源をオフにして、電源ケーブルを抜いてください。
2. ケースカバーをはずし、利用可能な PCI-EXPRESS スロットを確認します。
3. スロットにさしこみ、しっかり固定されているか確認してください。
4. ケースカバーなどを元に戻します。

コンピューター
の拡張スロット



ドライバのインストール

下記の手順で、ドライバをインストールしてください。

Windows の場合、「新しいハードウェアの検出ウィザード」ドが自動的に立ち上がります。ドライバインストール用の CD をいれ、指示に沿ってドライバをインストールしてください。

Mac の場合、ドライバインストール用 CD をいれ、指示に従って Mac 用ドライバをインストールしてください。



詳しくはウェブサイトから eSATA ホストカードのユーザーマニュアルをダウンロードしてご覧ください。

ドライバの認証

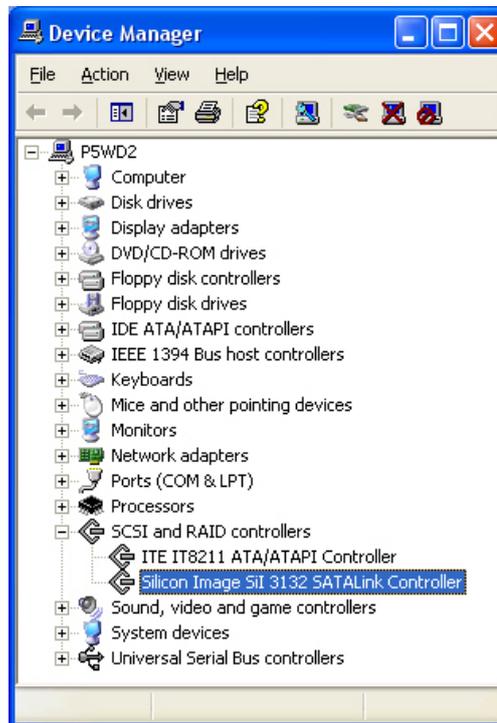
Mac OS:



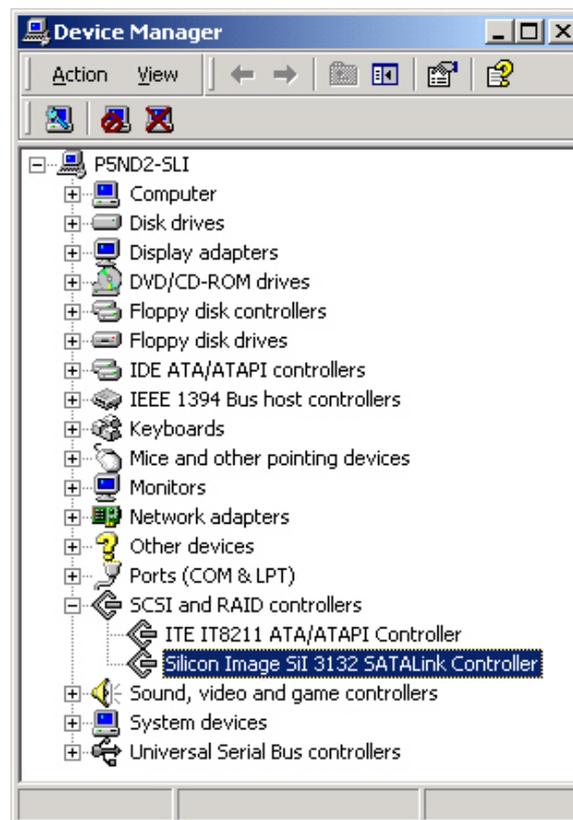
Windows OS:

1. マイコンピュータを右クリックし、「管理」をクリックします。
2. リストから「デバイスマネージャー」を選択します。
3. SCSI と RAID コントローラーをクリックします。
4. **SiI 3132 SATALink Controller** が下図のように表示されます。

Windows 2003 と XP:



Windows 2000:



Q&A

一般

Q: RAID モードを変更したのに、なぜ反映されず、前の RAID モードのままですか？

A: RAID モードの変更を確認するには、ユニットの電源をオフにする必要があります。電源を入れなおすと、変更が反映されます。データの安全のため、RAID モードを変更する場合は、必ず電源をオフにしてから操作してください。そのまま操作すると、データが消失する可能性があります。

ハードディスクの容量

Q: 所持しているハードディスクはすべて 1TB 以上のものです。RAID システムでこれら大容量を認識することが可能ですか？

A: 本 RAID システムは問題なく対応できます。しかしながら、以前の多くのオペレーティングシステムでは 2TB までしか対応できず、MacOS では 10.3 以降、WindowsOS では Vista 以降が対応しています。さらに、インターフェイスによっても容量の制限を受けます。以下の表を参考にしてください。

2 テラバイト以上への対応

OS		USB	FireWire	eSATA
Windows	Windows 2000, XP	不可	不可	不可
	Windows XP 64-bit, Windows 2003 32-bit/64-bit (SP1 と SP2)	可	不可	可
	Windows Vista, Windows 2008 32-bit/64-bit	可	可	可
Linux	Linux 32-bit/64-bit	不可	不可	不可
Mac	Mac OS 9/10.1/10.2	不可	不可	不可
	Mac OS 10.3/10.4/10.5	可	可	可

Q: Mac でも WindowsPC でも読める FAT 形式でハードディスクをフォーマットしたいですが、容量の制限はありますか？

A: あります。下の表を参考にしてください。

ファイルシステム	NTFS	FAT32	FAT (Win2000 / WinXP)	FAT16
容量制限	Vista: 16384TB XP: 2TB	Windows: 32GB Mac: 2TB	4GB	2GB

ハードディスク容量の違い

Q: 320GB のハードディスクを使用したとき、なぜ認識されるハードディスクの利用可能容量が 320GB より小さいのでしょうか？

A: 多くの方が実際の容量と OS が表示する容量との違いに困惑しますが、それは計算方法が異なるために、減少して見えます。実際には 2 つの計算方法があります。

2 進法 : 1 キロバイト = 1024 バイト

10 進法 : 1 キロバイト = 1000 バイト

一般的にハードディスクに表示されているのは、10 進法での容量で、OS 上で表示されるのは 2 進法です。

例 :

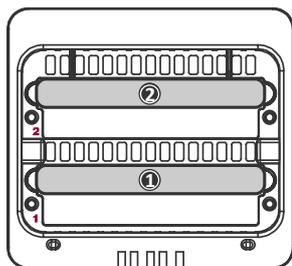
仕様容量 : 約 360GB → OS 上表示容量 : 約 343GB

ハードディスクの割り当て

Q: RAID システムからすべてのハードディスクを抜きました。今度またそれらを元に戻そうと思いましたが、どこにどのディスクが刺さっていたか忘れてしまいました。間違ったところに挿入しても、中のデータは無事ですか？

A: ハードディスクはもともと刺さっていた場所に戻さなければなりません。パッケージに付属している番号シールを貼って、ディスク位置を確認すると安全です。

ハードディスクの割り当て



RAID 0

Q: RAID 0 モードで、750GB のハードディスクと、500GB のハードディスクを使っています。なぜ、総容量は 750GB + 500GB ではないのですか？

A: RAID 0 モードでは少ないほうの容量が採用されます。最高のパフォーマンスを得るためには、同メーカー、同容量、同回転数のハードディスクを使ってください。

JBOD

Q: eSATA 接続のとき、JBOD モードが利用できないのですが、なぜですか？

A: チップセットの仕様により、eSATA 接続で JBOD モードはご利用になれません。

Q: USB 接続でハードディスクを挿入しましたが、システムが認識しません。なぜですか？

A: HDD 2 スロットにハードディスクを挿入してください。

付録：仕様

モデル名	RS-M2Q0
コネクタ	eSATA x 1、USB 2.0 x 1、 FireWire400 x 1、FireWire800 x 1
対応ハードディスク	3.5 インチ SATA HDD* *同メーカー、同容量、同回転数のものを推奨
RAID レベル	RAID 0 (ストライピング)、RAID 1 (ミラーリング)、JBOD
データ転送速度 (理論値)	eSATA: 最大 3Gbps USB 2.0: 最大 480Mbps FireWire400: 最大 400Mbps FireWire800: 最大 800Mbps
材質	アルミケース+プラスチックパーツ
LED 表示ランプ	電源 / 状態 / 異常 / アクセス / リビルド(再構築)
電源	入力: AC 90-264V 出力: DC +12V/2A, +5V/2A 最大電流: 4A, 3.7A
ファン	寸法: 80 x 80 x 10 mm x 1 速度: 1900 R.P.M +-10% ノイズ: 最大 17.13 dB(A)
外形寸法	126 (L) x 138 (W) x 213 (H) mm
重量(ハードディスクは含まない)	1.35kg
準拠規格	CE, FCC